

しいのき



戦時生活から学ぶこと

館長 比田井 克仁

今年には戦後70年ということで、社会的にも大きな話題となっています。当館でも、5月26日から7月5日まで「ポスターに見る戦中生活」と題した企画展を開催し好評を得たところです。当館には中野区の旧家で発見された千点を超える戦時中のポスターが保管されています。その内容は極めて軍隊色の強いものから、一般庶民の生活にかかわるものまで様々であり、これらを通じて当時の世相を追うことができます。その中でも日常生活にかかわる2点が上の写真で、企画展見学者の関心を持ったポスターです。これらを見ていると、過去にあったという事ばかりでなく、今にも通じることが感じ取れます。

ポスター達が語らんとすることは「七十年、二度とあっては、ならぬこと、されども無駄は、いましめるべし」といったところでしょうか？

文化財よもやま話

ポスターに見る戦中生活 ～須藤亮作コレクション～

時代をあらわす資料

5月26日(火)から7月5日(日)まで「ポスターに見る戦中生活 ～須藤亮作コレクション～」を開催しました。

須藤亮作氏は江古田4丁目に生まれ育ち、戦中は隣組組長をにない、また郷土史家としての活動もおこなっていました。没後に当館へ寄贈された膨大なコレクションから、戦時中に集められたポスター1500枚超より30点と、それにまつわる資料を展示したものです。

2015年は戦後70年にあたっていたため、戦争にまつわる展示が多く開かれましたが、ポスターというメディアによるものが珍しかったのか、普段来館されない客層をよびよせました。

戦後生まれが8割を越すようになり、当館への寄贈品も「戦時中に使用された」ことがはっきりとわかるもの、戦争と関係するものを保持される方が少なくなってきました。特定の時代を象徴する資料は、それ自体が大変貴重なものとなります。今後、ますますこういった資料を集めることが困難になるのは必至です。

戦後に生まれた子ども、孫の世代ではすでに使えない、使わない、物の名前がわからない、という状況が増えていくため、捨てられてしまうことが多いからです。

当館は区民の方から寄贈していただいた資料で展示をおこなっていますが、特定の時代を象徴するものを展示しようと考え、今後、寄贈して下さるのを待つだけでは、民俗担当者としても、とうてい間に合わない状況だと感じています。

近頃、高齢の方で身辺整理をかねた活動として寄贈されることが増えました。資料を見せていた

だくの併せて、戦時中の体験をお聞きすることもおこなっています。貴重な資料だけでなく、体験話もぜひお聞かせ下さい。



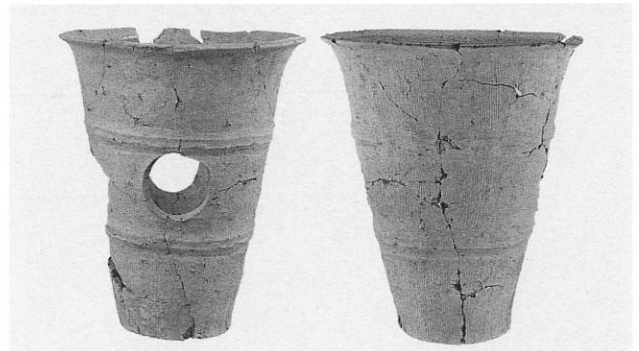
ポスターと燈火管制用電球(右下)、
携帯国旗など

大地に眠る歴史

えんとうはにわ 新発見「円筒埴輪」

今回は、最近の発掘調査で出土した新発見資料を紹介します。2014年11～12月に発掘調査を行った上高田五丁目の遠藤山遺跡で、中野区はじめての「円筒埴輪」が6世紀中頃の古墳の溝の中から発見されました。埴輪というと人物や動物などが知られていますが、一番たくさん造られたのは円筒埴輪です。これは古墳の墳丘のすそ一周に立て並べて首長の墓を守り、飾るものです。

遠藤山遺跡では古墳の溝がわずか長さ約3mほどしか調査できませんでしたが、その溝の中に3個体以上が発見され、そのうちの1つはほぼ完全に復元できました。



中央の穴は「透し孔」、よこの帯は「たが」と呼びます。
全体に縦方向に細かい刷毛目。右は側面の様子。

この古墳の墳丘は長い時間に削られてなくなっていましたので、調査前にはまったく存在はわからなかったものです。その点で今回の発見は予想外のものでした。

大きさは高さ28.6cm、口径23.5cmと円筒埴輪としては小形のものですが、表面の調整技術や粘土に含まれる鉱物などの比較研究から、埼玉県北部の東松山市周辺の埴輪窯(はにわがま)で製作されたものと考えられます。

古墳はその地域の首長の墓ですので、上高田の首長と生産地である東松山市周辺の首長が交流ネットワークを創り上げていたことがわかります。

6世紀の頃、人々は首長を中心にして、周辺の共同体とも交流を深めていたのでしょう。

しかし、謎は残ります。首長が君臨した集落の跡が上高田地域ではまだ発見されていません。一体、どこに人々は住んでいたのでしょうか? 集落遺跡の発見が期待されます。(つづく)

平成27年度中野区指定有形文化財 「山崎家ひな人形」一式(137点)

(中野区指定文化財：登録指定第120号)

平成27年度指定文化財について、中野区教育委員会は、中野区文化財保護審議会の審議検討を経て、歴史民俗資料館所蔵資料の中から「山崎家ひな人形」一式137点を平成27年4月24日付けで中野区指定有形文化財に指定しましたので紹介いたします。

【山崎家ひな人形】

1. ひな人形〔17体〕

- (1) 次郎左衛門雛 1組(2体)
- (2) 古今雛 5組(10体)
- (3) 五人囃子 1組(5体)

2. 人形〔33体〕

- (1) 御所人形 2体
- (2) 御所人形(ミニチュア) 6点
- (3) 三つ折人形 3体
- (4) 木目込み人形 6点
- (5) 毛植人形 16点

3. 雛道具〔84点〕

4. 付属調度品(重箱)〔2点〕

5. 付属三つ折人形収納箱〔1点〕

計 137点



来歴

本資料は区民山崎家からの寄贈資料です。山崎家は、旧江古田村名主を務め、初代から故山崎喜作氏まで八代を数え、現在の当主は九代です。約300年近く続く区内屈指の旧家です。江戸時代は喜兵衛を襲名し、三代の時に名主に任命され、六代の時に明治維新を迎えました。以後、松太郎、喜作と代を重ね、「ひな人形」は八代喜作氏の代まで用いられていたものです。

「ひな人形」は、毎年桃の節句に、山崎家書院(天保12年〔1841〕建立・現存)に7段飾りとして飾られていました。今回の一式資料は、山崎家で飾られていたもののすべてです。

歴史民俗資料館では、開館以来、毎年2～3月、山崎家の飾り方を踏襲し、展示をしてきたものです。



資料の年代と歴史的位置づけ

ひな人形は、次郎左衛門雛1組と古今雛5組からなります。次郎左衛門雛は、宝暦年間（1751～63）から18世紀末にかけて流行したものです。また古今雛は、明和年間（1764～72）に作られ始め、その系譜は現在まで連なっているものです。

最も古いものとしては、次郎左衛門雛（人

形5）が挙げられ、年代的に名主を初めて任命された三代喜兵衛の夫人（明和4年1767生まれ）の所持品であったことが考えられます。最も新しいものは、八代喜作氏夫人のひな人形（人形6）が生年である明治35年（1902）頃の制作年代を与えることができます。

残りの4組の古今雛は顔の造りや大きさ、染料などから、右の人形1→2→3→4の順に新しくなるものと推定され、1が四代喜兵衛、2が五代喜兵衛、3が六代喜兵衛、4が七代松太郎のそれぞれの夫人の所持品と考えられます。各夫人の生年から、1が寛政3年(1791)か若しくは寛政11年(1799)頃、2が文化14年(1817)頃、3が天保11年(1840)か嘉永4年(1851)頃、4が慶応2年(1866)か明治8年(1875)頃にそれぞれの年代を求めることができます。

その他の年代に関わるものとしては、三つ折人形の一つに「たま 天保八年」という箱書きがあります。たまは、四代喜兵衛の他家へ嫁いだ娘で生年は天保4年です。1833年頃のものと考えられるでしょう。その他の人形類と雛道具類の年代と帰属については不明ですが、ひな人形1～5のいずれかに伴うことは間違いありません。いずれにしても18世紀後半から20世紀初頭までの一括資料です。

指定すべき事由

「山崎家ひな人形」は、規模・年代ともに東京近郊でも類をみないものです。資料そのものについては、生地傷みなどが認められるものの、六代にわたる代々の夫人の所持品が残され、伝世されていることは極めて貴重です。

以上のことから、使用背景と使用時期の明確な一括資料として、近世から近代の江戸近郊農村における、年中行事を祝うあり方や文化水準などの実態を示す資料としても、指定文化財として後世に残し伝えていく価値は高いものと判断されます。



人形 1



人形 2



人形 3



人形 4



人形5



人形6

山崎家の雛祭り

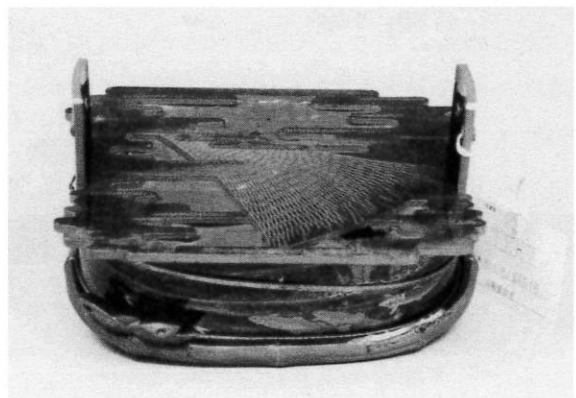
山崎家では、ひな人形の飾りつけにあたって、まず雛段を組み立てるときは、大工に頼みました。板一枚をとっても長さ240cm・幅30cmもあり、人形・屏風・調度品を飾りつけると、その高さは鴨居より高く、広さも2部屋分を使ったといいます。飾りつけは、代々、当主の夫人が中心となって、親族みんなを手伝って行ったようです。

節供の日には、盛大にお祝いをしたようで、近所の子どもたちもおひなさまを見に来、甘酒といり豆をごちそうしてもらうのが恒例となっていました。



特別な雛道具 「鯉桶」

鯉桶は、楕円形の漆塗りの器で、蒔絵が施されていて、蓋の部分には網が張ってあります。山崎家では、祝い事などの際に、海が遠いので鯛ではなく、鯉が用いられたといいます。生簀があり、鯉を運ぶ時に使われたのが鯉桶でした。それを雛道具に仕立てたもので、他では見られない、貴重なものです。



古文書つづり

忘れ去るには 早すぎる

この夏はあちこちで「戦後70年」という言葉を耳にしました。終戦から70年が経ち、実際の様子を知る人が少なくなったため、早いうちに体験談を記録しておこうという動きの影響でしょうか。その節目に前後して、日本がこれまで積み重ねてきた制度や社会がずいぶん急に変えられました。後の時代に、ここ数年が戦後日本の大きな転換点だったと評されることは間違いありません。

一方、70年前まで日本がどこまで戦っていたのかすら知らない人もおり、経験の継承が不十分だと言わざるを得ません。このような歴史を知らない層に、モノを通してこれまでの歩みを知ってもらう機会を提供するのも博物館の役割です。

今回ご紹介する資料は「連合軍最高司令部指令並ニ指令ニ基ツク公文書綴」です。戦後、国民学校（現在の小・中学校）に通達された、教育の非軍国主義化についての指示が綴られています。

読んでいくと、教科書上の国家主義的・軍隊賛美的記述を抹消させる「墨塗り教科書」の指示のほか、問題のある図書の没収や、変わったところでは大麻の栽培禁止令まであり、教育現場の混乱した状況がうかがえます。教える方も大変だったでしょうが、それまで肯定的な文脈で語られてきた領土の獲得や軍隊が否定され、歴史だと教えられていたものが実は神話・伝説でしたという激変に、子ども達は大いに戸惑ったことでしょう。

政治の都合で制度や社会が急変し、割を食うのはいつでも子どもなどの弱者、そして一般の人です。本資料を見ながら、ふと「愚者は経験に学び賢者は歴史に学ぶ」との言葉を思い出しました。できれば賢くありたいものです。

▶ 「連合軍最高司令部指令並ニ指令ニ基ツク公文書綴」表紙と教科書の墨塗り指示（部分）



張り子

願いを込めた郷土玩具

日本各地には紙、土、木、わらなどの自然の素材を用いたさまざまな郷土玩具があります。その土地の風土や暮らしを反映して郷土色豊かな玩具が誕生しました。

張り子は木製の原型に和紙を何枚も貼り重ねて乾燥させた後、切り割って原型を取り出し、貼りあわせて彩色したものです。ゆらゆらと首が揺れる虎や、招き猫やだるまなどは誰もが一度は見たことがあるのではないのでしょうか。どの張り子も素朴な形とユーモラスな表情にふっと笑みがこぼれます。

張り子は単なる幼児の玩具や縁起物としてだけでなく、子どもの成長や病気除けなどの願いが込められたものがあります。その中からいくつかご紹介します。

東京の「ざるかぶり犬」。犬は安産のお守りとして、昔から子どもが生まれると犬張り子を母親に贈る風習がありました。竹で編んだざるをか

ぶった犬は「犬」に「竹」を乗せると漢字の「笑」になることから、むずかる子を笑わせ機嫌が直るという親の思いが込められています。

福島の「赤べこ」。会津地方では牛のことを「べこ」と呼びます。赤色は昔から疱瘡除けとして使われていたことから、赤べこを子どもに贈る風習がありました。また子どもの誕生にはべこのごとく重荷に耐えて壮健であれと赤べこを供えてお祝いしました。

栃木の「黄鮒」。昔疱瘡が流行った際、川で釣った黄色い鮒を食べた病人が治ったという言い伝えから病魔退散の祈りを込めて飾ります。

このように張り子は可愛らしいだけでなく、その土地に住んでいる人々の願いや思いもたくさん詰まった郷土玩具なのです。



左から、ざるかぶり犬・赤べこ・黄鮒

事業報告

各種事業経過

2014年10月～2015年9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「旅とひとびと」 「おひなさま」 「五月人形と鯉幟」 「むかしのくらし」	10/11～11/30 2/7～3/8 4/17～5/16 7/10～8/30
特 別 展	「いろいろなはかり」 「おもちゃ絵とすごろく」 「出土品からみる狩りと採集の生活」 「山崎家の陶磁器」	5/31～7/27 8/30～10/12 11/29～2/8 3/7～4/12
夏 休 み 座 講	体験イベントれきみんサマーフェスタ 「鯛車作り」「貝のつるし飾り」「自力で火おこし」「つまみ細工風根付」 「むかしのくらし体験」「拓本しおり作り」「勾玉づくり（4回）」「ちぎり絵うちわ」 「中野の犬小屋どんなどこ?」「こけしはがき作り」「むかしの遊び工作」	7/21～8/31
講 座	古文書講座 講師：笠原綾氏、大友一雄氏 伝統文化体験教室「講談教室」 講師：神田山緑氏	10/11～11/15 11/30・12/7・14
公 開 事 業	秋季「山崎家茶室書院公開」 春季「山崎家茶室書院公開」	4/25～5/10 10/1～11/30
埋 蔵 文 化 財 対 応	江古田一丁目24番民有地立会 (4/7) 弥生町三丁目10番民有地立会 (6/9) 鷺宮四丁目20番民有地立会 (6/16) 江原町二丁目16番民有地立会 (6/17) 野方三丁目17番民有地立会 (7/1) 鷺宮四丁目20番民有地立会 (7/2) 若宮一丁目4番民有地立会 (7/4) 本町六丁目6番民有地試掘 (7/7) 国庫補助 松が丘一丁目11番民有地立会 (7/9) 白鷺一丁目17番民有地立会 (9/5) 弥生町五丁目11番富士見台遺跡確認 (9/8) 国庫補助 弥生町六丁目11番民有地立会 (9/8) 弥生町五丁目11番富士見台遺跡本調査 (6～9月) 上高田五丁目15番民有地試掘 (10/2・15) 松が丘一丁目11番民有地立会 (10/3) 松が丘二丁目20番民有地立会 (10/7)	江古田二丁目18番民有地立会 (10/9) 沼袋二丁目27番民有地立会 (10/9) 東中野二丁目13番民有地立会 (10/14) 白鷺一丁目17番民有地立会 (11/11) 上高田五丁目17番民有地本調査 (11/10～19) 松が丘(哲学堂公園内)確認 (12/18・19) 国庫補助 南台二丁目11番民有地立会 (2015/1/26) 新井四丁目18番民有地立会 (1/30) 沼袋一丁目30番民有地試掘 (2/2～5) 国庫補助 本町五丁目34番民有地立会 (2/12) 弥生町六丁目1番広町遺跡試掘 (2/23～30) 弥生町六丁目1番広町遺跡試掘 (3/2～4) 国庫補助 江古田一丁目24番民有地立会 (3/25) 江古田一丁目19番民有地立会 (4/2) 白鷺二丁目48番民有地試掘 (3/10～11) 国庫補助
そ の 他	小学校総合学習見学 21校	9月～8月

寄贈資料一覧

2013年9月～2014年3月

敬称略：受入順

資 料 名	点数	氏 名
表彰状、契約書ほか	一括	源代 喜久子
絵馬	一括	大澤 一皓
徳利	2	青木 政雄
区役所建設時8ミリフィルム	16	野口 哲
愛国百人一首	1	佐々木 泉
五月人形	一括	和田 良三
羽子板、京人形ほか	7	藤居 真智恵
桃二小絵葉書、事務箋	2	五十嵐与志子

◎貴重な資料をありがとうございます。
厚く御礼を申し上げます。

入館状況

2014年9月～2015年8月(延べ292日間) (人)

一 般	団 体	学校教育	合 計
31,288	3,780	1,514	36,582

発行年月日 2015年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119